

ビジョンを明確にし、 社会人基礎力を常時発揮する ―新たな資格取得教育への挑戦―

社会人基礎力は、行動する自分を捉えるツール

愛知学泉大学家政学部管理栄養士専攻の安藤明美教授は、管理栄養士の教育に、社会人基礎力を導入しています。学生達は、社会に出ると管理栄養士として、人の健康を食の面から担うことになり、社会人基礎力は、よい管理栄養士として活躍する力となります。しかし、安藤先生は、将来のための力として社会人基礎力を育成しようとしただけでなく、大学4年間の学びを充実したものにするために、社会人基礎力の力を使いました。

そこには二つのポイントがあると思われます。

一つは、社会人基礎力の12の能力要素を絶えず意識して、自分をチェックし、行動させようとしたことです。社会人基礎力は、行動する自分を客観的に捉えるツールだとみなす

ことができます。だからこそ先生は授業中に、「今、私は傾聴力を使っているんだ、と想って人の意見を聞くように」「これが創造力を使っていることになるんだと、意識して」と、意識と行動をつなげるように盛んに呼びかけます。このことを学びの場面で実践すれば、主体的な学びができ、最終目標である管理栄養士の資格取得につながると考えています。

もう一つは、管理栄養士の資格取得という目標を明確にし、そのために何をすればよいのか、社会人基礎力を使って目標実現の方策を考えさせることです。目標達成の力として社会人基礎力を活用しようとしています。

あらかじめ学生は社会人基礎力の概念を頭に入れておく必要がある、というのが安藤先生の考えです。社会人基礎力の育成自体が目的ならば、社会人基礎力が発揮されたと実感した後で、社会人基礎力の概念を伝えた方が、概念の定着度は高いかもしれません。しかし、安藤先生の場合、社会人基礎力は、行動する自分を捉えるツールであるため、行動と認識を同時進行させるためには、先に社会人基礎力を知っておく必要があるのです。

また、先に高めるべき能力を提示することは、強い成長志向、高い目的意識があるときには、効率的であると思われます。管理栄養士として身に付けるべき専門知識や技術と並べて提示すれば、学生にも受け入れやすいものになります。

このような考えから、1年次では、社会人基礎力の言語を使ってビジョンを明確にするという活動を通して、まず社会人基礎力の理解を行うという、半年かけた、まるで長いガイダンスのような授業を行い、2年次には、毎授業を社会人基礎力で振り返るトレーニングを授業内で行いつつ、実際の学習活動で社会人基礎力の発揮実践を行っていくという授

業を行っています。

1年生から社会人基礎力をがんがん学ぶ
―1年間かけたガイダンス―

安藤先生は、4年間という長い間やる気を途絶えさせずに、管理栄養士の資格取得の学習に取り組むには、学生の行動をそれに見合ったものに変容させなければならないと考えました。

管理栄養士になりたいという目的を持って入学したものの、高校までの学習スタイルと異なり、主体的な学習が求められる大学の勉強スタイルを前に、どうやって勉強してよいかかわからず、入学後の学びの意欲があつという間にしぼんでしまう恐れもあります。そうなる前に、入学直後から、目的を鮮明にし、目的に向かって進むことを意識付けたいと考えたのです。そして、学習に対する受身な取り組みを変えさせるために、社会人基礎力の発揮の仕方を身に付ける必要があると考えました。

こうした目的を鮮明に打ち出し、1年次に社会人基礎力を理解させ、意識し、行動につなげていくために、「管理栄養士への道」という授業を設けたのです。

「管理栄養士への道」は、1年前期、90分×15コマ、選択の公開講座としていますが、1年生全員（101名）が受講しています。この授業では、まず学生にビジョンを明確にし、常に意識させることを理解させます。そして、ビジョン達成のために社会人基礎力が有効であると意識させ、社会人基礎力をどのように活用し、それぞれの講義、実験、実習

に臨めばよいのかを学ばせます。

教員のガイダンス、管理栄養士になったOBや、社会人基礎力を学んだ3、4年生の講演など座学も行いますが、中心はグループディスカッションで、どんな場面で社会人基礎力を発揮するのかケースを挙

げて、12の能力要素ごとに考えさせている授業が特徴的です。

例えば、「規律性」を理解させる回では、「レポートの提出期限が守れず、単位がもらえなかった、このときあなたはと思うか」と考えさせます。このとき、先生は厳しい、嫌い、関わりたくないといった、先生に対する本音のようなものも、それはあってもよいとします。しかし、先生の意図をわかってほしいということで、次のような語りかけをします。

「管理栄養士への道」授業スケジュール

	授業内容	シート記入	
1回	「社会人基礎力とは」 (学部長講話、先輩の社会人基礎力の活動発表)		
2回	社会人基礎力の説明と自己評価	事前の振り返りシート記入 活動記録シート（毎授業）	
3回	専攻教員全員によるオリエンテーション		
4回	ビジョン達成のための知識・スキルは何か (各科目担当教員からの管理栄養士になるために なぜその教科が必要か説明)		
5回	▼		
6回	3、4年生による社会人基礎力発揮法の伝授		
7回	ビジョンに必要な知識・スキルは何か (確認シート記入)		
8回	授業における社会人基礎力の活用法（グループ） ①主体性、働きかけ力、実行力		
9回	②課題発見力、計画力、創造力		
10回	③発信力、傾聴力、柔軟性		
11回	▼④状況把握力、規律性、ストレスコントロール力		
12回	「授業でどのように活用するか」レポート作成		
13回	レポート発表		
14回	現役管理栄養士による講演		▼
15回	社会人基礎力の自己評価	事後の振り返りシート記入	

資料提供 愛知学泉大学家政学部

「管理栄養士への道／やる気シート」学生が記入したシート

1. 社会人基礎力活用図より、ビジョン達成のために12の能力要素をどのように活用するか文章を作成

主体性を持つことで課題発見力、実行力が発揮でき、自分のビジョンあるいは課題が何なのかははっきりさせ、実行力のそれぞれを駆使していくことで課題解決ができ、それがビジョンの達成につながる。またその土台として、基礎知識等も重要である。

2. あなたのビジョン（将来の職業 具体的）は何ですか

病院で患者さんのことを一番に考え、無理なく、安心して食の改善などを手伝える管理栄養士になりたい。病気の人に対しても、食の面からのサポートができるようにしたい。

3. ビジョンを達成するために必要な知識は何ですか

・栄養学、人体のこと、病気に関すること

・人のことを理解し、人の気持ちをわかる

4. 12の能力要素（主体性、働きかけ力、実行力、課題発見力、計画力、創造力、発信力等）すべてを使用して取り組む姿勢を記載（卒業までの受講姿勢）

①受講科目

まず、やる気を出して授業に取り組む。授業内ではマナーを守り、先生の話をしっかり聞き、知識を増やす。自分の意見を言う機会には進んで発言し、また人の意見をよく聞き、その考えも受け入れ、それが自分にとってどのような利点になるかを考える。

テストの時や予習、復習では何をどうするかをしっかりと決めて行動し、学ぶ。

②実験・実習科目（項目を想定して具体的に）

・誰も動こうとしない場合は、自分から動く。そして周りがやりやすいよう働きかける。

・みんなで意見を出し合い、課題に向かってどう取り組むか考え、行動する。

・その時に今自分たちがどういう状況で、何をすればいいのかをよく理解しておく。

・また自分と意見や考え方が合わないからといって雰囲気が悪くすることや、やる気をなくすことのないよう、それはそれとして1つの意見だから受け入れる。

資料提供 愛知学泉大学家政学部

会社では企画書を期限内に出さなかったら、上司は「いいよ、また次に出せばいいから」とは言ってくれない。もうそこで終わり。次にあなた達への期待はないです。次にどんなによい企画書を出したとしても、期限内に企画書を提出しなかった時点で信頼関係は切れてしまう。これから皆さんが社会に出て、規律性を当たり前のこととしてできるよう、学生時代のうちから規律性を学んでほしい。そういった先生の気持ちが再履修という形で表れているんです。

一方では、「なぜレポートを書くのか」とレポートの目的を考えさせるなど、授業活動の意味も意識させます。また、社会人基礎力の12の能力要素の言葉を使って、授業に取り組む姿勢を作文させるという活動もあります（「やる気シート」参照）。これは、自分でも言葉を使ってみないと知識が自分のものにならないという考えからです。最終的には、それは、宣言として、皆の前で発表します。これらの考える活動は、個人でまずは書かせて、その後グループで持ち寄って、グループでまとめたものを作るという流れを取っています。

また、授業中、先生が、社会人基礎力の言葉を意図的に使って、学生の意識化と行動を促す場面が大変多いのも特徴的です。発言を促す場面では、「（意見が）正しい、間違っているということではない。自分の考えがまとまっていないことが問題。発信がないですね」、作業をさせている場面では、「やることがわかっていないと主体性が発揮できないよ」といった具合です。こうした活動を経て、学生は、先生の問いかけに、社会人基礎力の言葉で答えられるようになります。こんなやりとりが生まれます。

学生…（講義に取り組む姿勢として）寝ない、授業と関係ない内職をしない、ということがありました。

安藤先生…どうしたら寝なくなるの。

学生…眠くなるということは、第一に考えられるのは寝不足…。

安藤先生…寝不足というのは基本的な生活習慣がなっていないということでしょう。

学生…しっかりした睡眠時間をとることが大切です。内職というのは、期限内に課題が終わっていないということだで、計画力が足りないということだと思います。期日ギリギリで慌てることのないよう計画を立てます。

1年生は、まず12の能力要素を知識として蓄積していく段階であると考え、12の能力要素の言葉を絶えず、教員も学生も発していく仕掛けを随所に作っているのです。

社会人基礎力の発揮実践の場
―「栄養教育論」（2年生）―

2年生になると、1年次で理解した社会人基礎力を、専門教育の授業の中で発揮実践しながら、さらに理解を深め、同時に社会人基礎力を使って専門知識を学ぶ方法を学んでいきます。発揮実践の場所は、「栄養教育論」です。2年次の必修科目で、前期に知識習得、後期に実習を行います。管理栄養士専攻約100名が、3クラスに分かれて受講しています。

「栄養教育論」は、管理栄養士として、要の授業となります。管理栄養士は、患者の栄養改善のために、患者に対する栄養指導・栄養教育をしていくことが仕事です。患者の問題点を見極め、自分の知識を活用し、提言をしていかなければなりません。前期の講義では、栄養指導・栄養教育の専門知識やカウンセリング技法などを講義中心で学びますが、実際の栄養指導・栄養教育では、いかにそれらの知識を活用していくかが問われます。うまく知識を活用するためには社会人基礎力が必要であると考えています。こうした意味からも、「栄養教育論」で社会人基礎力育成をする意味は大きく、後期の実習では、知識活用の実践を行いつつ、社会人基礎力の発揮実践を行うこととなります。

2年後期の実習「栄養教育論実習」は、1回135分×15コマの授業で、個人↓ペア↓グループと、大きく3つのフェーズで構成されています。全授業の前半は、肥満患者に対して栄養カウンセリングができるようにカウンセリングプランを立て、ロールプレイングで実施するという課題で、個人で考えさせることに重点を置いています。中盤はペアワークを取り入れ、肥満予防のポスターの作成などを行い、他人と意見交換が慣れた後半では、学生の食生活改善を提案するための活動をグループワークで行っていきます。

毎時間書く「活動記録シート」は実践トレーニング

「栄養教育論実習」の135分の授業の導入の5分、終了間際の5分を使い、社会人基礎力の振り返りを毎時間行っています。安藤先生は、絶えず学生に社会人基礎力を意識させ、自分をチェックさせ、行動させようとしています。社会人基礎力の言葉を日常的に使って、意識にしみこませようとするのです。その重要なツールが、「活動記録シート」（p467参照）です。授業の最初に、その日の授業の中で社会人基礎力をどのように発揮実践するかを具体的に書かせます。授業中は絶えず、「今、傾聴力使って人の意見を聞いている？」などと、社会人基礎力の言葉で学生に働きかけます。授業が終わった後で、振り返りを行い、意識を高めます。

具体的には、授業の初めに、教員が授業の目的、全体の流れを説明し、授業で発揮してほしい社会人基礎力の能力要素をアナウンスします。その後5分以内で、学生はその日の授業での活動内容と、社会人基礎力の目標を「活動記録シート」に記入します。具体的には、「3つの力」ごとに、「特に活用する能力要素」を選び、「本日の能力要素を活用して、本日の活動をどのように取り組みますか」に対して記述していくものです。そして、最後の5分で、「3つの力」ごとに5段階で評価を行い、さらに「何をすれば評価を上げるこ

「栄養教育論実習」の大まかな流れ

全授業の前半	個人で考える 授業内容：肥満患者カウンセリング（ロールプレイングで実施）等
全授業の中盤	ペアワーク 授業内容：肥満予防ポスター作成等
全授業の後半	グループワーク 授業内容：学生の食生活改善等

資料提供 愛知学泉大学家政学部

活動記録シート

専攻 1 2 3 4 (年)												クラス A B C No												氏名											
1. あなたのビジョンは何ですか？ (将来あなたは社会でどのようなことがしたいですか？それは周りの人や社会にどのような役に立つと思いますか？)																																			
2. ビジョンを達成するためのあなたが身につけたい専門知識・スキルは何ですか？																																			
3. 科目名 ○○○○○												授業回数： 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15																							
4-1 本日の活動の理解・習得内容												4-2 自己評価：活動内容の理解度(%)できましたか												4-3 マイナス部分の改善はどうしますか。											
												100 90 80 70 60 50 40 30 20 10 0																							
												100 90 80 70 60 50 40 30 20 10 0																							
												100 90 80 70 60 50 40 30 20 10 0																							
												100 90 80 70 60 50 40 30 20 10 0																							
												100 90 80 70 60 50 40 30 20 10 0																							
												100 90 80 70 60 50 40 30 20 10 0																							
能力要素 特に活用する能力要素に○をつけ、その内容を書いてください。												5-1-① 主体性・働きかけ力・実行力																							
5-1-② 評価 1 全く意識できなかった 2 時々意識できた 3 いつも意識できた 4 いつも意識して行動できた 5 いつも意識して積極的に行動できた												5-1-③ 能力要素の評価は、何をすれば評価を上げることができますか。																							
5-2-① 課題発見力・計画力・創造力																																			
5-2-② 評価 1 全く意識できなかった 2 時々意識できた 3 いつも意識できた 4 いつも意識して行動できた 5 いつも意識して積極的に行動できた												5-2-③ 能力要素の評価は、何をすれば評価を上げることができますか。																							
5-3-① 発想力・継続力・柔軟性・状況把握力・規律性・ストレスコントロール力																																			
5-3-② 評価 1 全く意識できなかった 2 時々意識できた 3 いつも意識できた 4 いつも意識して行動できた 5 いつも意識して積極的に行動できた												5-3-③ 能力要素の評価は、何をすれば評価を上げることができますか。																							

図版提供 愛知学泉大学家政学部

とができるか」を書かせます。

シートでは、社会人基礎力以外の事柄についても、振り返りをさせています。その日の授業での活動やスキルなど習得内容について、理解度を%で評価させ、100%理解できなかったときには「マイナス部分の改善はどのようにしますか」と今後の改善策を書かせています。基礎力にせよ、活動や習得内容にせよ、その日頑張ったからよしと、単に振り返らせるのではなく、「今後何をすればよいか」にフォーカスの当たったシート構成になっています。次に何をすればよいのか自分で考える習慣を付けることで、4年間の学習を自分で考え、進める力を付けるのです。

シートを書く時間は5分と短く、最初はなかなか書けない学生もいます。書けない学生には、机間巡視して、何をどう書けばよいか具体的に考えさせるコメントをしています。しかし、何回か繰り返すうちに、書けるようになっていきます。その場で考えるのではなく、あらかじめ考えてくるような習慣が付くからです。また、「記入はボールペンで」としているのも、安藤先生のこだわりです。あらかじめ頭の中で文章を組み立てて書く習慣を付ける、正式書類はボールペンで書くものなのでボールペンで書くことに慣れさせる、緊張感を持って記入に当たらせる、などの狙いがあります。

こうして書いた学生のシートは、その時間内に回収され、先生がコメントを赤で入れて、次回にフィードバックします。約30人のクラスが3つあり、毎週約100枚のシートにコメントを記入するのは大変ではありますが、1年から4年まで一貫して学生を見ていこうとする安藤先生の姿勢の貫かれたものになっていると思われます。

こうして鍛えられた学生達は、3年次では病院など学外での実習を行い、4年次になる

「栄養教育論実習」授業スケジュール

	授業内容	シート記入	
1 回	栄養教育論実習・社会人基礎力オリエンテーション	事前の振り返りシート記入 活動記録シート（毎授業）	
2 回	生活習慣病予防の栄養教育① （疾病別ガイドライン・食事摂取基準）		
3 回	生活習慣病予防の栄養教育② （食品交換表の活用）		
4 回	行動変容・カウンセリング①（基本と活用法）		
5 回	行動変容・カウンセリング②（実際）		
6 回	行動変容・カウンセリング③（ロールプレイング）		
7 回	生活習慣病予防のポスター作成（ペア）		
8 回	↓		
9 回			
10 回	本学、学生の食生活改善への提案（グループ）		
11 回	↓		
12 回			
13 回			
14 回	発表（グループ）		↓
15 回	試験	事後の振り返りシート記入	

資料提供 愛知学泉大学家政学部

と卒業研究を行います。これらの活動では、2年次の発揮トレーニングの段階を経て、「発揮する」段階に入っていきます。常に社会人基礎力を意識し、チェックし、行動することで社会人基礎力を発揮しつつ、一方で、絶えず目標を鮮明にし、管理栄養士への道へ進むことになるのです。